

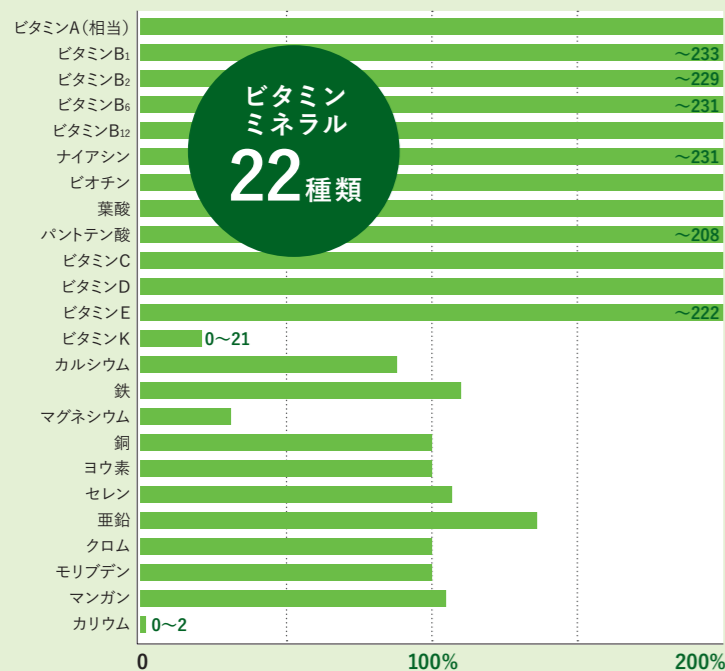
ビタミン・ミネラル量比較^{*1}

圧倒的なビタミン・ミネラル量を実現!

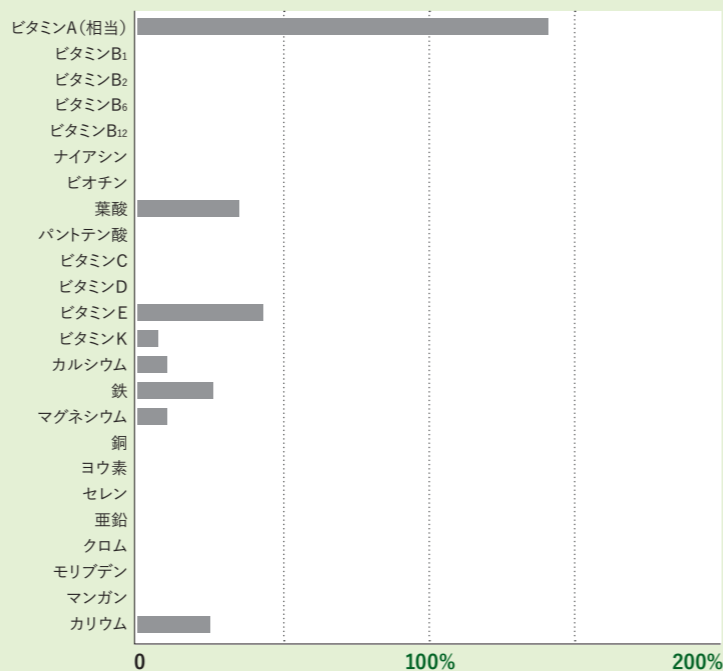
※ビタミン・ミネラルのみを比較しています。ビタミン・ミネラル以外にそれぞれの製品ならではの栄養素を摂取することができます。



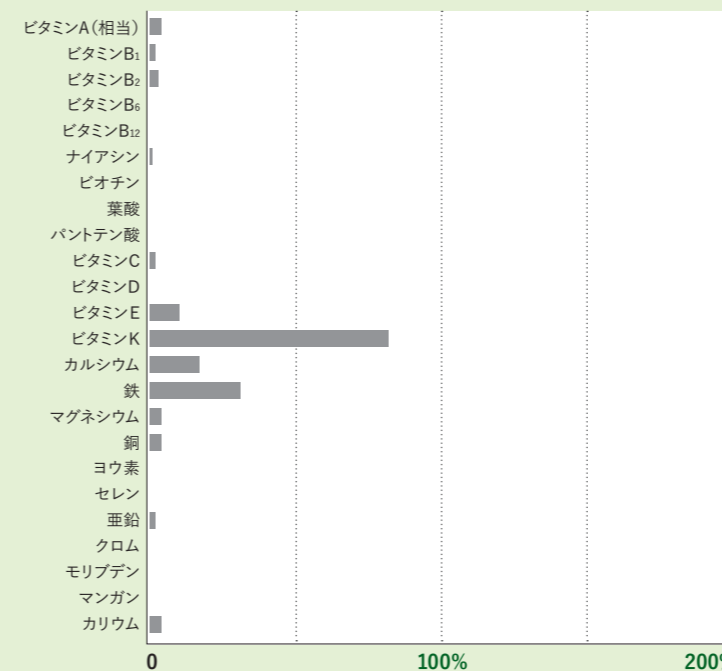
トリプルX™ (1日2回あたり)



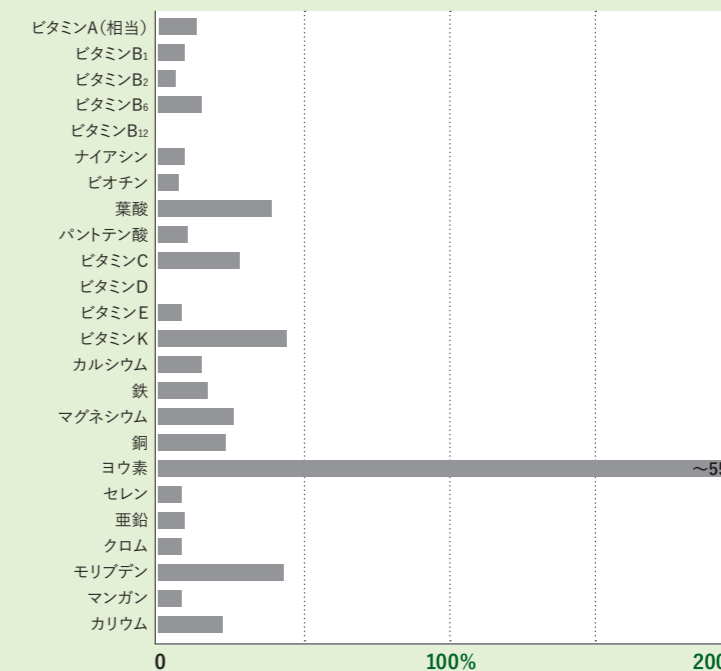
1日分の野菜350gを使用している
売上No.1 K社野菜ジュース^{*2} (200mL)



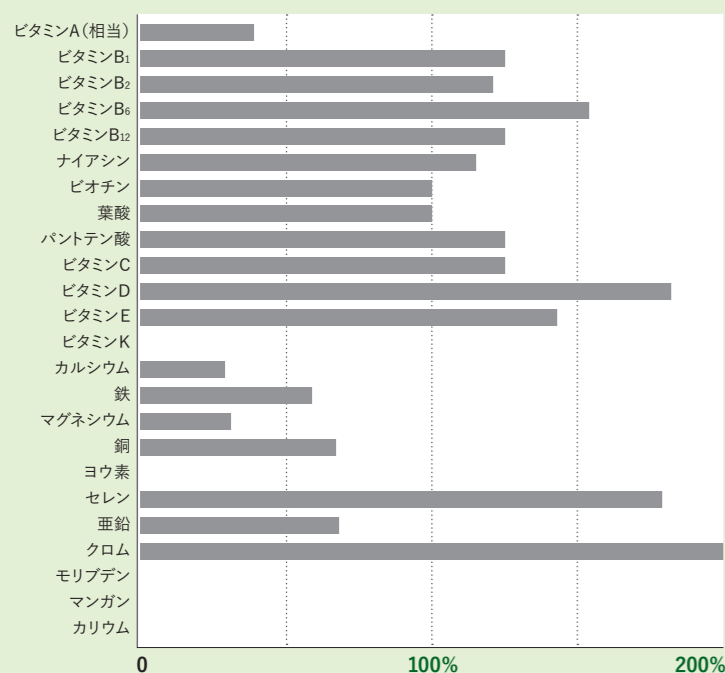
不足しがちな栄養素を手軽に補える
売上No.1 A社青汁^{*3} (1日3袋あたり)



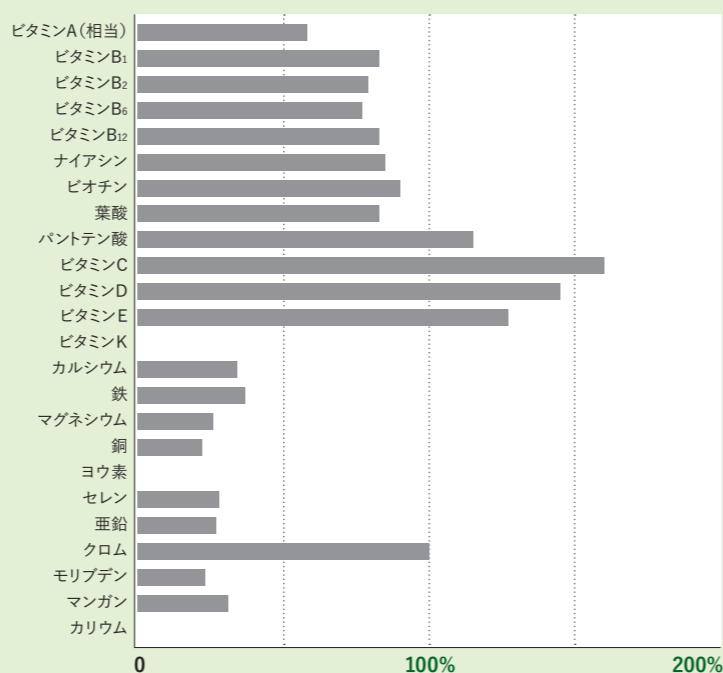
17品目が摂れる
F社コンビニサラダ^{*4} (1個)



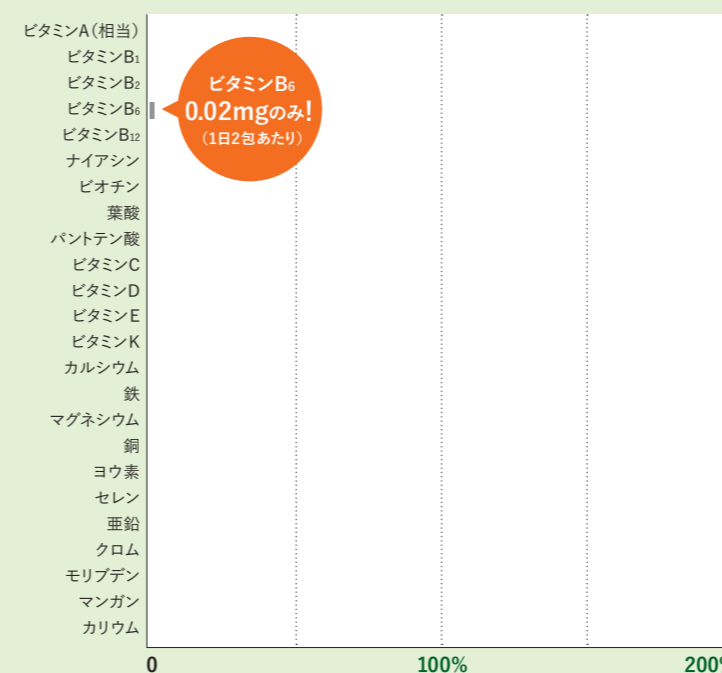
店頭で購入できる代表的な
マルチビタミン・ミネラルサプリメント
ブランドN^{*5} (1日1粒あたり)



店頭で購入できる代表的な
マルチビタミン・ミネラルサプリメント
ブランドD^{*5} (1日4粒あたり)



50種以上の植物素材を発酵・熟成
売上No.1 M社いわゆる酵素食品^{*6}
(1日2包あたり)



*1 栄養素等表示基準値 (18歳以上、基準熱量2,200kcal) に占める割合。配合量に幅があるものは最大値を使用。ラベルもしくはホームページで表示されている各ビタミン・ミネラルの含有量 (1日の摂取目安量あたり) を基に作成

*2 100%野菜ジュース 一般小売店舗での販売実績1位のブランド TPCマーケティングリサーチ調べ (2022年1~12月)

*3 富士経済H・Bフーズマーケティング便覧 機能志向食品編 (2023年版) 青汁市場2021年実績販売高1位の製品

*4 2018年7月時点で店頭で販売されているサラダ。各素材の重量を計測し、(株)健帛社エクセル栄養君を用いて算出 (自社調べ)。現在同一のものが販売されているとは限りません。

*5 富士経済H・Bフーズマーケティング便覧 機能志向食品編 (2023年版) マルチバランス市場 (複合) 2021年実績における販売高上位のブランド

*6 戦略企画健康関連食品の現状と将来展望2013-2015 酵素市場 2013年実績販売高1位ブランド (ペーストタイプの製品)。いわゆる酵素食品とは、植物発酵エキス食品を意味しています。

ファイトケミカルスの種類を表すピークを比較！^{*1}

5色の野菜・果物のチカラ「ファイトケミカルス」

ファイトケミカルスとは、野菜・果物が生き抜くために生み出した色などの成分の総称。活性酸素吸収力を持ち、第7の栄養素とも呼ばれています。数千～数万種類もあり、よく知られているものに、ポリフェノール、イソフラボン、リコペンなどがあります。種類によってさまざまな有用性をもつため、色々な種類のファイトケミカルスを補給することがおすすめです。



*1 高速液体クロマトグラフィーによるポリフェノール類、アントシアニン類、カロテノイド類の分析結果より

ファイトケミカルスの種類も、 トリプルX™が圧倒的！

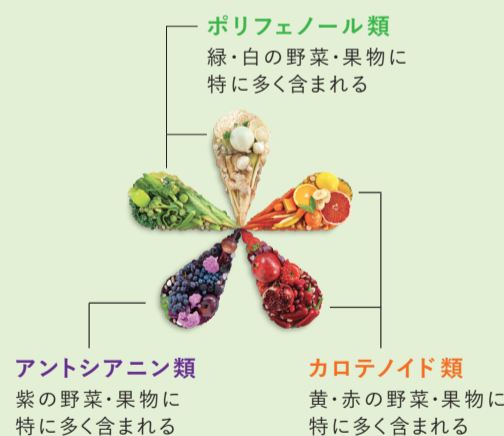
代表的な合成マルチビタミンミネラル製品^{*2}やトリプルX™のように野菜を原料に使用している健康食品・飲料と比べても、ファイトケミカルスの種類も圧倒的に違うことがわかります^{*3}。

*2 すべてのビタミン・ミネラル飲料が合成とは限りません。

*3 ファイトケミカルスのみを比較しているため、含まれる成分すべてを比較しているわけではありません。

5色の野菜・果物に含まれる
代表的なファイトケミカルスを分析

山(ピーク)の数が多いほど、
種類豊富にファイトケミカルスが
含まれています。



店頭で購入できる代表的な
マルチビタミン・
ミネラルサプリメント
ブランドN⁴



店頭で購入できる代表的な
マルチビタミン・
ミネラルサプリメント
ブランドD⁴



4種の植物濃縮物を使用
MLM競合 N社
マルチビタミンミネラル⁴



32種の国産野菜を凝縮
売上No.1 D社
野菜粒サプリメント⁵



50種以上の
植物素材を発酵・熟成
売上No.1 M社
いわゆる酵素食品⁶



不足しがちな
栄養素を手軽に補える
売上No.1 A社
青汁⁷



1日分の野菜350gを
使用している
売上No.1 K社
野菜ジュース⁸

※ニュートリライトにて行った高速液体クロマトグラフィーを用いた分析結果を基に作成(2017年調べ)
※ファイトケミカルス量の比較は得られたピークの高さから判断しています。各ピークの高さは、ファイトケミカルスの量に比例しますが、厳密には各ピークの面積によって量を測定します。ピークの数にはファイトケミカルスの「種類」の多さを示します。
*4 富士経済H・Bフーズマーケティング便覧 機能志向食品編(2023年版) マルチバランス市場(複合) 2021年実績における販売高上位のブランド
*5 富士経済H・Bフーズマーケティング便覧 機能志向食品編(2023年版) 野菜粒市場 2021年実績販売高1位

*6 戦略企画健康関連食品の現状と将来展望2013-2015 酵素市場 2013年実績販売高1位ブランド(ペースタイプ)の製品。いわゆる酵素食品とは、植物発酵エキス食品を意味しています。
*7 富士経済H・Bフーズマーケティング便覧 機能志向食品編(2023年版) 青汁市場2021年実績販売高1位の製品
*8 100%野菜ジュース 一般小売店舗での販売実績1位のブランド TPCマーケティングリサーチ調べ(2022年1~12月)